

# やまと 民俗への招待

鹿谷 勲

世界遺産登録に向け、熊野古道小辺路と大峯奥駈道の踏査に参加したことがある。

2001年5月3日土

(八講)により管理運営され、5月3日に開け、9月23日に閉じられる。本堂向かいの詰め所には

2001年5月3日土  
明、まず大峯山寺戸開け式を見た。2日夜11時、天川村洞川から山上ヶ岳(1719m)に登った。小雨が降るなか、洞辻仕屋を経て午前2時過ぎに龍泉寺宿坊に到着。全国の修験道の根本道場とされる大峯修験の拠点大峯山寺本堂は、桁行八間(24m弱)、梁間八間(20m弱)の大建築で、役小角が祈り出でさせた蔵王天現を祀る。吉野山と洞川の五つの護持院、地元徒縁代、さらに大阪と堺の山伏で作る阪堺役護

は、既に大勢の関係者がそろっていた。会場の正面に役行者、左に藏王権現、右に不動明王の掛け軸が祀られている。午後3時の鐘を白団に電灯が消され、提灯の明かりだけで、式が始まった。地元信徒総代の挨拶、番護持院の式辞のあと、本堂の鍵渡しとなる。本堂左側面奥の秘密口の鍵、正面口の鍵、本堂右側面のハタシ口の三つの鍵



人馬を組んで鍵振り役を乗せて練り回る

=2001年5月3日、筆者提供

# 信者突進 未明の秘儀

組み、妙見門から本堂前広場に向かう。暗闇のなか激しく練り歩いた後、秘密口・正面口・ハカシ口の順で、扉の鍵が開けられ、一斉になだれ込む。外陣に足を踏み入れると広くひんやりとして薄暗い。内陣に入り、右回りに裏側へ進むと「秘密の行者」像が祀られ、さらには「役講の行者」像を拝してハカシ口から堂外に出ることになっている。

れる大嘗修驗の拠点である。山寺本堂は、桁行八間(24尺弱)、梁間八間(20尺弱)の大建築で、役小角が祈り出現させた蔵王権現を祀る。吉野山と洞川の五つの護持院、地元徒縄代、さらに大阪と堺の山伏で作る阪堺役護

番護持院の五語のあと  
本堂の鍵渡しとなる。土  
堂左側面奥の秘密口の  
鍵、正面口の鍵、本堂右側  
面のハタシ口の三つの鍵

が年番の講に手渡され、般若心経・不動明王の真言、山上權現・神変大菩薩が名を唱え、地元信徒総代の挨拶で終了した。鍵を渡された役講は、

してハガシロから皇帝外に  
出ることになっている。  
怒濤のようになだれ込  
む信者と一緒に、秘密の  
行者像の前で心経を唱え

役小角配流を卒論で  
いながら、山上参りは初めてだった。行者は慄然と  
とするような厳しい眼差しで見つからず、外では大轟  
摩が焚かれていた。(左)